

地域産業保健センターの活性化に関する調査研究

調査態勢

主任研究者	京都産業保健総合支援センター所長	横田 耕三
共同研究者	京都産業保健総合支援センター相談員	古木 勝也
共同研究者	京都産業保健総合支援センター相談員	志岐 初子
共同研究者	京都産業保健総合支援センター相談員	内藤 勝巳
共同研究者	京都産業保健総合支援センター相談員	平林 裕
共同研究者	京都7地域産業保健センター長	運営委員
共同研究者	同上コーディネーター	計33名

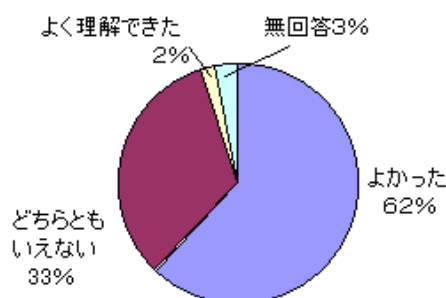
1.はじめに

京都府下7地域センターの活性化に役立つ事業推進や運営について、また問題点について、各地域センター長、運営委員、コーディネーターが本調査研究で交流を重ね、対象の小規模事業場の労働者や事業者アンケートして、この事業の評価満足度調査を実施した。またこの事業の実施者である登録医師の活動状況もアンケート調査した。これらをもとに、地域センター事業の活性化要因をQC手法の特性要因図にして検討し、事業事例や経験事例を交流し、この調査研究内容とした。

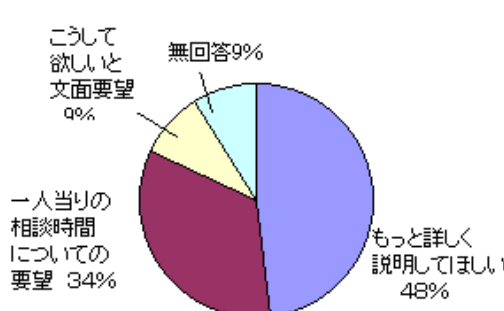
2.地域産業保健センター事業の評価・満足度調査

個別訪問産業保健指導を受けた労働者264人の回答評価満足度は、第1図のとおりであった。健康相談、保健指導に関する要望意見が137回答あり第2図のとおりであった。

●1図

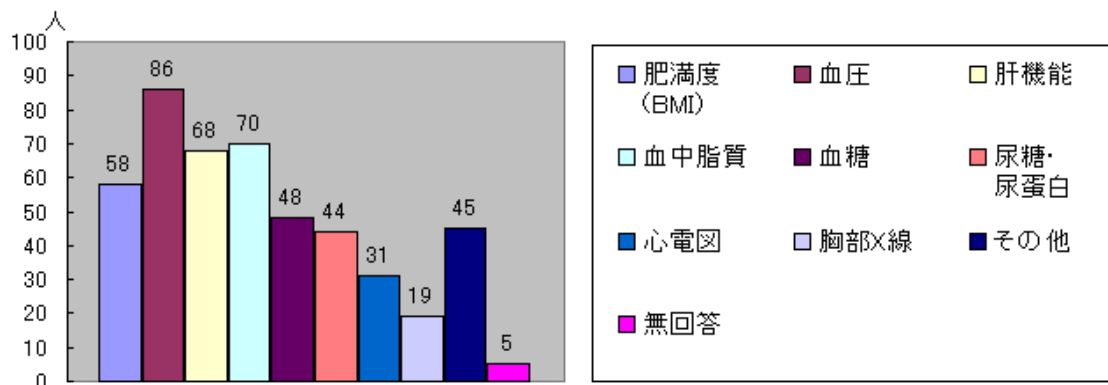


●2図



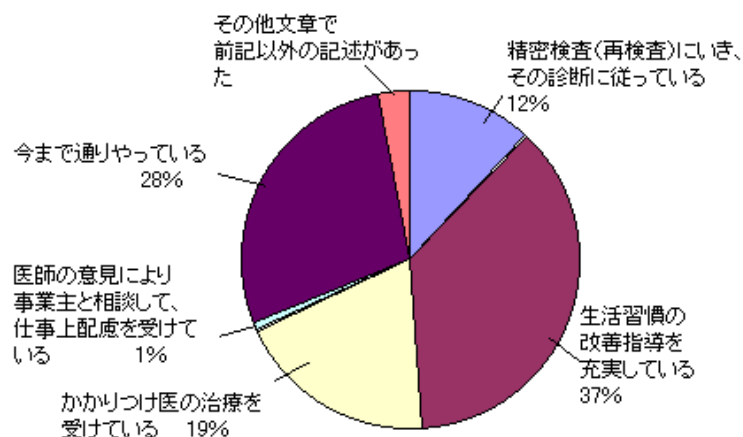
健康相談、保健指導の内容は第3図に示す健診結果の異常所見率に比例し実施されていた。

●3図



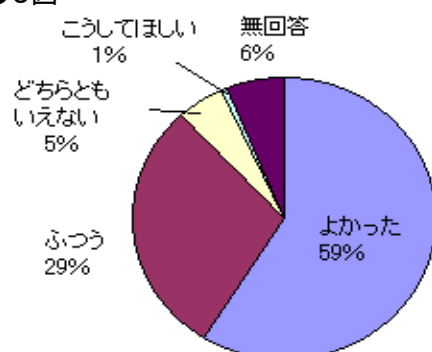
健康相談、保健指導を受けた回答者のとった行動について聞いた結果は第4図のとおり70%の人が指導を実行していたが、28%の人は「今までどおりやっている」と回答し、生活習慣の改善指導に課題を残している。

●4図

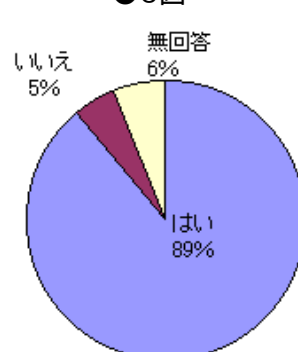


個別訪問指導した事業主へのアンケートに77事業場から回答得た。指導を受けた事業主の評価満足度は第5図のとおりであり、健康相談保健指導は健康診断結果票で行ったかの設問の回答が第6図である

●5図

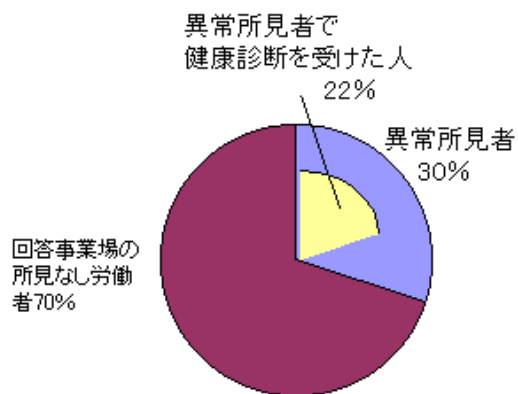


●6図

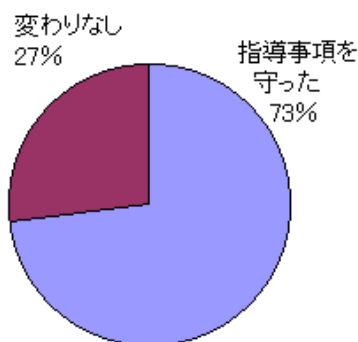


回答事業場の健診有所見率とその健康相談指導実施状況が第7図で指導遵守状況が第8図である

●7図



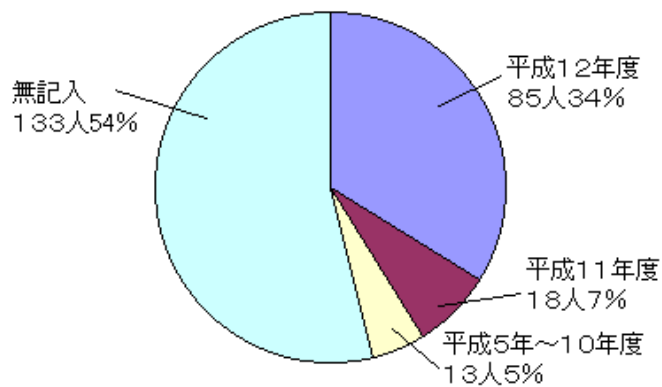
●8図



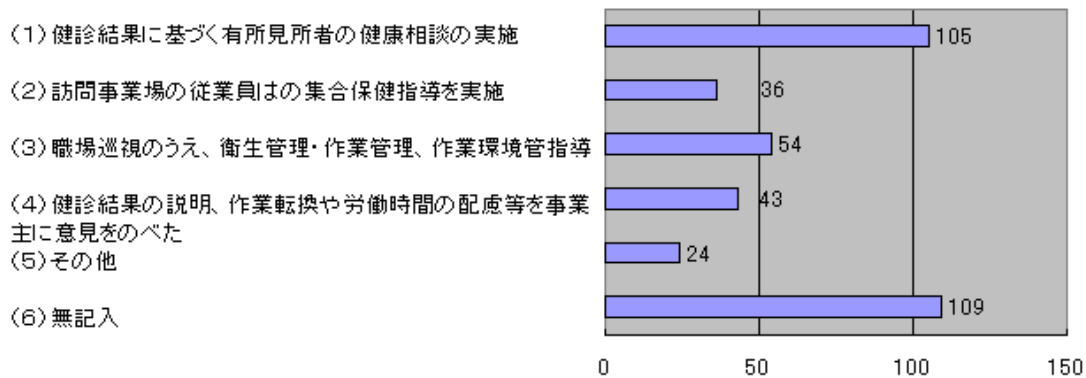
地域産業保健センターの活性化を図るための現状把握の調査として、産業保健サービスの実施者である「登録産業医に関するアンケート」も実施して、地域センター事業への出務状況や個別訪問事業場での産業保健指導内容等を調査し、活性化についての意見や提案をして頂いた。

登録医師580名に調査表を送り、249名43%から回答、意見を頂いた。その一部が第9図の出務状況であり、第10図登録医師が個別訪問で指導した内容を表したものである。

●9図登録医師が個別訪問指導に出務した状況



●10図登録医師が個別訪問で指導した内容



3.地域産業保健センターの活性化要因

調査研究委員会では、地域センター事業を推進し活性化させる要因について、事業の量的問題と質的評価で検討をすすめた。特に産業保健サービスの活性化は働く職場の快適性や労働者の健康を確保し増進を図る活動であるとの基本理念から、QC手法による「地域産業保健センターの特性要因図」に事業推進に必要な骨格を書いて検討し、骨格項目ごとの実施事項や各地域センターの実施体験などを小骨に書いて、活性化要因を検討した。その特性要因が第11図である。

●11図

地域産業保健センターの特性要因図



4.結果と考察

京都府下の7地域センターは、平成5年から9年の間に開設され、その事業実績や活動・運営状況にも違いがある。本調査研究で地域センターの活性化を課題としたことで、現状を委託事業の産業保健サービスのQOLの面からも受手の評価満足度を含め点検したこと、各地域センターの活動状況を好事例や経験を交流する方法でベンチマーキングして改善し、活性化の道標へととなった。特に問題の窓口健康相談についても、工夫と改善、新しい展開もあり、地域センター運営協議会関係者が計画、実行、点検、改善の経営責任を果たす実践活動を行うことで活性化すると結論を得た。